

2012/5/16

柏の景気情報（平成24年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成24年4月分）

○ 調査期間 : 平成24年4月23日 ~ 4月26日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	103	60.2%
建設	47	29	61.7%
製造	36	22	61.1%
卸・小売	49	34	69.4%
サービス	39	18	46.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成24年4月の調査結果のポイント】

◀ 業況DI柏の値が全国より下回る ▶

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.2(前月水準▲20.3)となり、マイナス幅が▲5.9ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.6(同▲9.6)、卸小売業▲41.1(同▲35.2)、サービス業▲11.1(同▲10.0)、製造業▲22.7(同▲21.7)である。

【建設業】からは、「節電対策の工事の問い合わせや見積もり依頼が多くなっています。ただ契約に至った物件はまだありません」(塗装工事業)、「今年度の公共事業は除染(土木工事)がメインになり、建築工事は減少」(塗装工事業)、「新築住宅の着工が少ない。放射能の影響か?」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「同業者の廃業がかなり増えてきている。印刷業界は本当に厳しく価格破壊も激化していくと思われる」(印刷業)、「販売価格の引き下げ要求があり採算性に関しては厳しい状況である。なお、メーカーにおける生産計画は増加となっているため、生産量増加で対応していきたい」(一般産業用機械・装置製造業)、「原材料価格アップはストップした。仕事内容の変化に伴い、外注費の増加が有り利益に影響が出ている。」(紙製容器製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「昨年が震災の為今年は昨年対比で売上上昇したが、基本的に経済が良くなったわけではない今後も不透明で予測できず、不安材料の方が多いように思える」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「昨年は震災の影響で厳しく、今年は若干好転するかと思ったが昨年と変わりはない」(菓子・パン小売業)、「消費税の増税問題や政治の不安定、加えて放射能の風評被害がポディーブローのように効いています」(農畜産物・水産物卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「仕入単価上昇。メーカーの在庫量が多い商品もたくさんあるため、メニュー見直しも含め、仕入先と相談しながら今後の仕入れ量等を検討する。大量集中仕入れになるかもしれません」(酒場・ビヤホール)、「放射能による風評被害の影響がじわじわと響いています。若いお客様が特に買い控えになっています。価格も低下傾向です」(不動産管理業)などの声が寄せられた。

◎電気料金値上げ

各業種から、「少ロット短サイクルに拍車がかかって残業休出を余儀なくされている状況である。電気使用量も節電どころかアップとなり支払い金額も予想をうわ回ると思われる」(電子部品・デバイス製造業)、「春の気温があまり上がらず春物の消化が悪かった。値下がりも大きく発生している。電気料金の値上げもせまり、今後は店内の温度などの空調も昨年よりもさらに細かく調整節約につとめる」(その他の各種商品小売業)、「電気代の値上げは企業にとって大打撃である。そしてまた一方的な値上げは許されてはいけない」(各種食料品小売業)、「競合店の開業により宿泊は厳しい予想宴席も企業宴席の減少により売り上げが読めない状況である。電気料金の値上げにより関連商品(備品)や食材の値上げも予想され利益が益々厳しい業界となる」(ホテル)などのコメントが

◎天候の影響

各業種から、「天候不順による春物商品の不調が目立つ。後半に入り春物コートの出が良いが全体では売れ筋商品が無いため、品ぞろえに苦慮している。低価格商品については価格競争がありますます下がってきている」(婦人・子供服小売業)、「4月度売上は、昨年比、一昨年比から微減。商品で見ると、衣料品が若干不振である。休日に雨の天候が重なったことも影響している。今後4月後半に昨年開催を見送った店外催事や、組織顧客向け対策を計画しているので、GWの巻き返しをはかりたいと考える」(百貨店)、「4月度、気温の上昇にともない、春物商材が活発化し順調な出足となった。しかし春休み明けから気温が安定せず、寒暖の差が激しかったことから売上は伸び悩んだ」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎燃料・原油高騰

各業種から、「まだまだ景気は低迷状態。機材で一部値上げあり。ガソリン代の値上がりにより収益が下がっている」(電気工事業)、「大きな変化好転の兆しは聞こえてこない。原油価格上昇にともない仕入単価への影響が出始めている」(その他の機械・同部品製造業)、「原油高の影響でコスト高となっている割に原価に組み入れできず採算が合わない。販売価格の下落が特に多く持ってきている」(一般機械器具卸売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲30.7	▲7.6	▲39.1	▲44.4	▲26.3
12月	▲31.3	▲28.0	▲32.0	▲37.5	▲25.0
1月	▲28.9	▲10.3	▲16.6	▲44.4	▲40.0
2月	▲33.0	▲20.0	▲26.0	▲52.7	▲23.5
3月	▲20.3	▲9.6	▲21.7	▲35.2	▲10.0
4月	▲26.2	▲20.6	▲22.7	▲41.1	▲11.1
見通し	▲26.2	▲20.6	▲22.7	▲35.2	▲22.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成24年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26. 2(前月水準▲20. 3)となり、マイナス幅が▲5. 9ポイント拡大した。

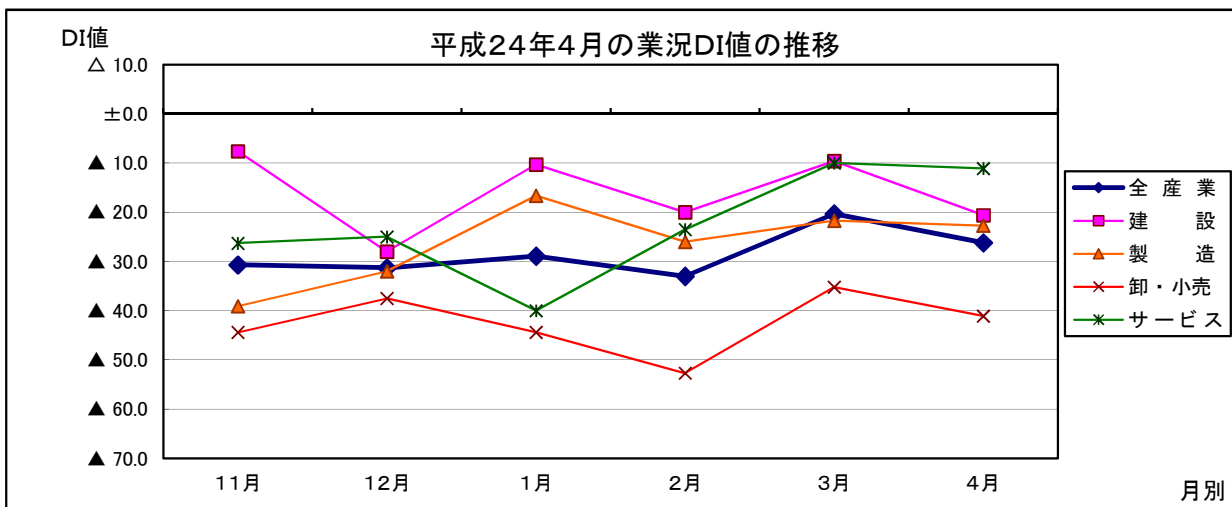
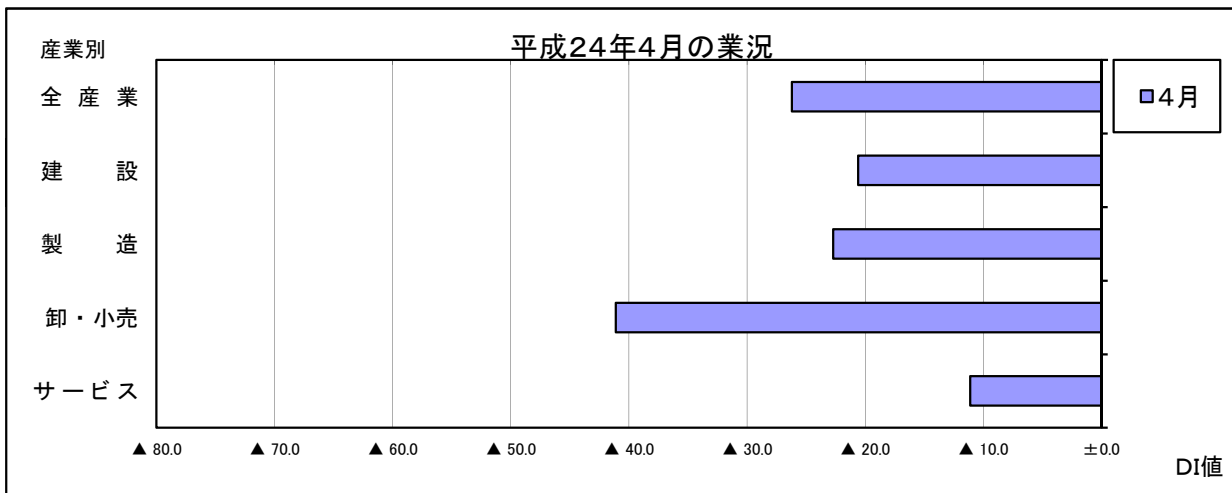
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20. 6(同▲9. 6)、卸小売業▲41. 1(同▲35. 2)、サービス業▲11. 1(同▲10. 0)、製造業▲22. 7(同▲21. 7)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26. 2(前月水準▲25. 0)となり、マイナス幅が▲1. 2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲22. 2(同▲25. 0)、建設業▲20. 6(同▲22. 5)である。変らない見通しの業種は、卸小売業▲35. 2(同▲35. 2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲22. 7(同▲13. 0)である。

平成24年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲30.7	▲31.3	▲28.9	▲33.0	▲20.3	▲26.2	▲26.2(▲25.0)
建設	▲7.6	▲28.0	▲10.3	▲20.0	▲9.6	▲20.6	▲20.6(▲22.5)
製造	▲39.1	▲32.0	▲16.6	▲26.0	▲21.7	▲22.7	▲22.7(▲13.0)
卸・小売	▲44.4	▲37.5	▲44.4	▲52.7	▲35.2	▲41.1	▲35.2(▲35.2)
サービス	▲26.3	▲25.0	▲40.0	▲23.5	▲10.0	▲11.1	▲22.2(▲25.0)



【平成24年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.5(前月水準±0.0)となり、マイナス幅が▲14.5ポイント拡大した。

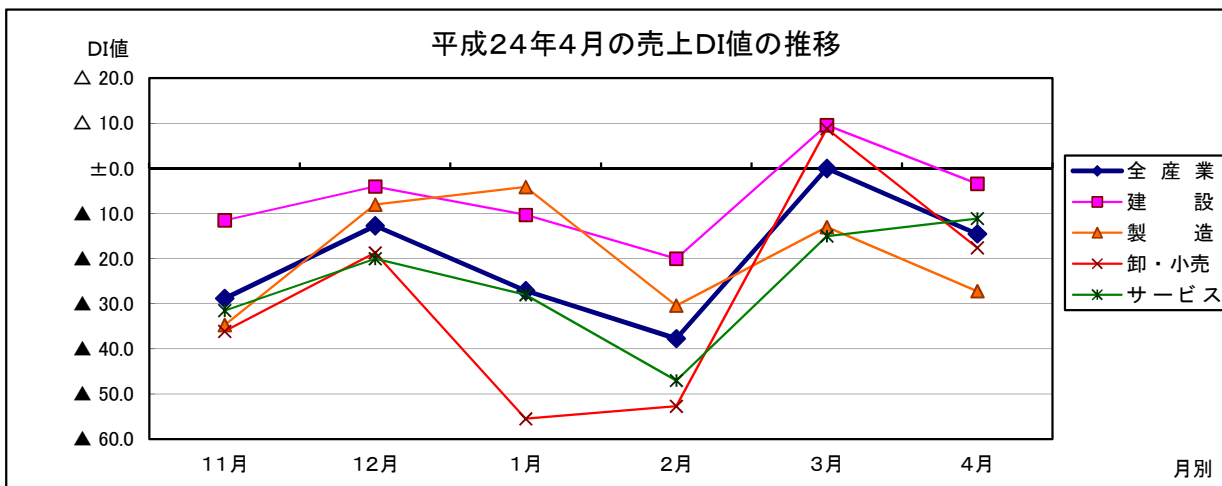
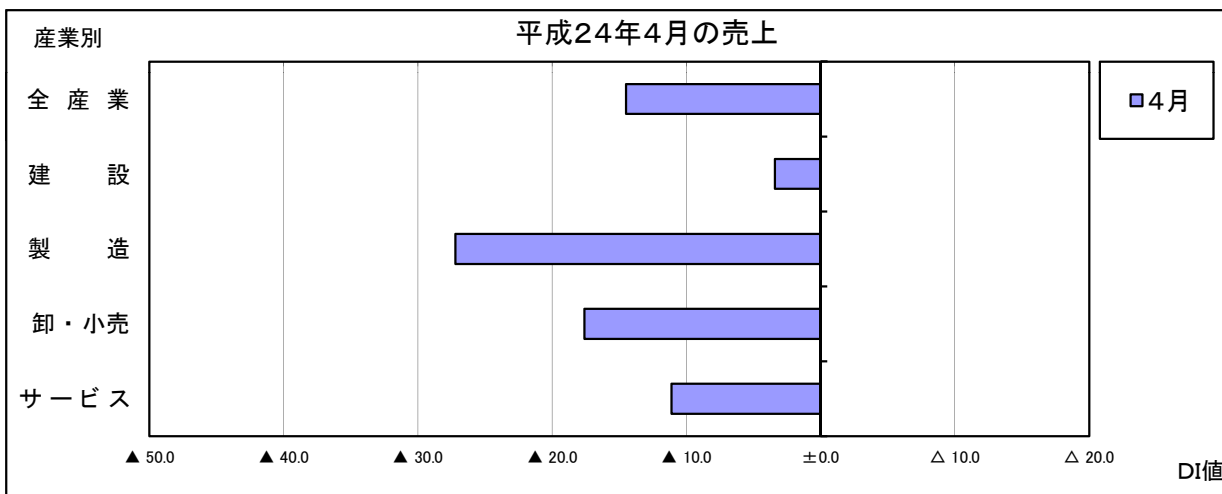
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲11.1(同▲15.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲17.6(同8.8)、建設業▲3.4(同9.6)である。特に、卸小売業は▲26.4ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲27.2(同▲13.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.6(前月水準▲13.8)となり、マイナス幅が3.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲13.7(同▲35.4)であり、マイナス幅が21.7ポイントと大幅に縮小する見通しである。変らない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲9.0(同±0.0)、卸小売業▲14.7(同▲11.7)である。

平成24年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲28.8	▲12.7	▲27.1	▲37.7	±0.0	▲14.5	▲10.6(▲13.8)
建設	▲11.5	▲4.0	▲10.3	▲20.0	△9.6	▲3.4	▲13.7(▲35.4)
製造	▲34.7	▲8.0	▲4.1	▲30.4	▲13.0	▲27.2	▲9.0(±0.0)
卸・小売	▲36.1	▲18.7	▲55.5	▲52.7	△8.8	▲17.6	▲14.7(▲11.7)
サービス	▲31.5	▲20.0	▲28.0	▲47.0	▲15.0	▲11.1	±0.0(±0.0)



【平成24年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23. 3(前月水準▲13. 8)となり、マイナス幅が▲9. 5ポイント拡大した。

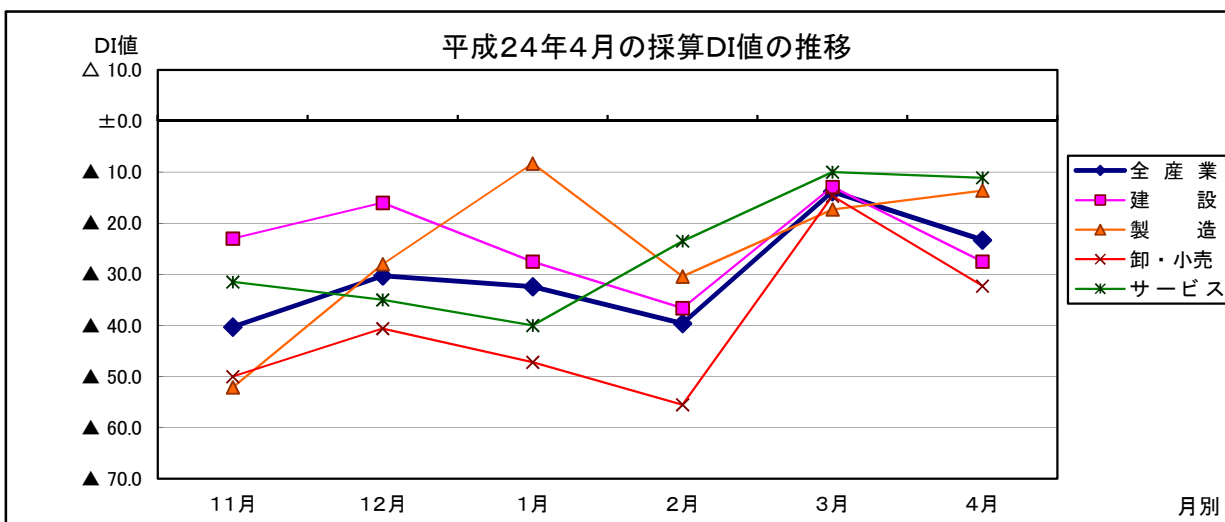
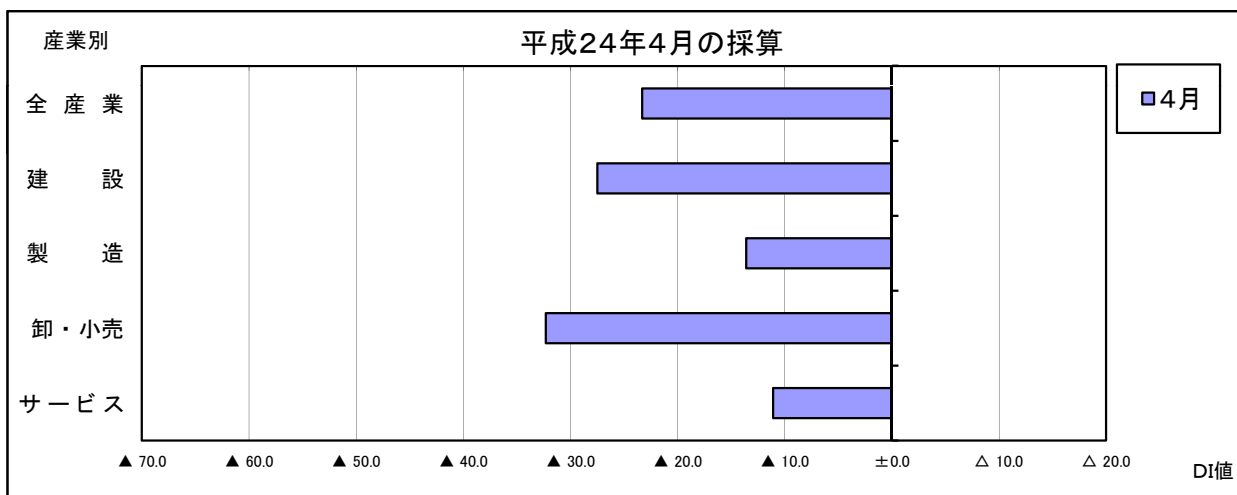
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲13. 6(同▲17. 3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32. 3(同▲14. 7)、建設業▲27. 5(同▲12. 9)、サービス業▲11. 1(同▲10. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22. 3(前月水準▲21. 2)となり、マイナス幅が▲1. 1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲34. 4(同▲41. 9)、卸小売業▲20. 5(同▲23. 5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲22. 7(同▲8. 6)、サービス業▲5. 5(同±0. 0)である。

平成24年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲40.3	▲30.3	▲32.4	▲39.6	▲13.8	▲23.3	▲22.3(▲21.2)
建設	▲23.0	▲16.0	▲27.5	▲36.6	▲12.9	▲27.5	▲34.4(▲41.9)
製造	▲52.1	▲28.0	▲8.3	▲30.4	▲17.3	▲13.6	▲22.7(▲8.6)
卸・小売	▲50.0	▲40.6	▲47.2	▲55.5	▲14.7	▲32.3	▲20.5(▲23.5)
サービス	▲31.5	▲35.0	▲40.0	▲23.5	▲10.0	▲11.1	▲5.5(±0.0)



【平成24年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.9(前月水準▲32.4)となり、マイナス幅が▲2.5ポイント拡大した。

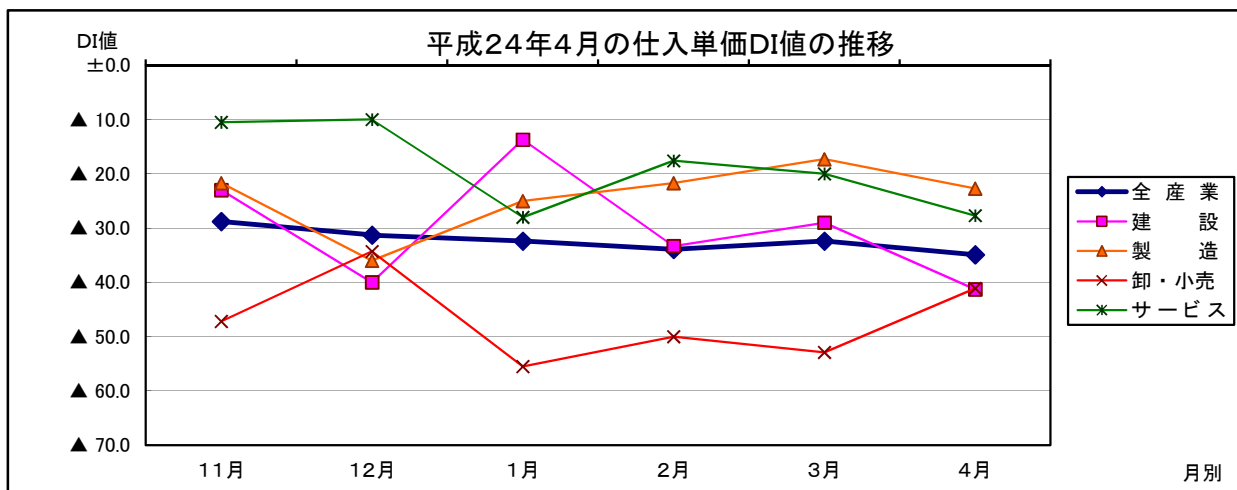
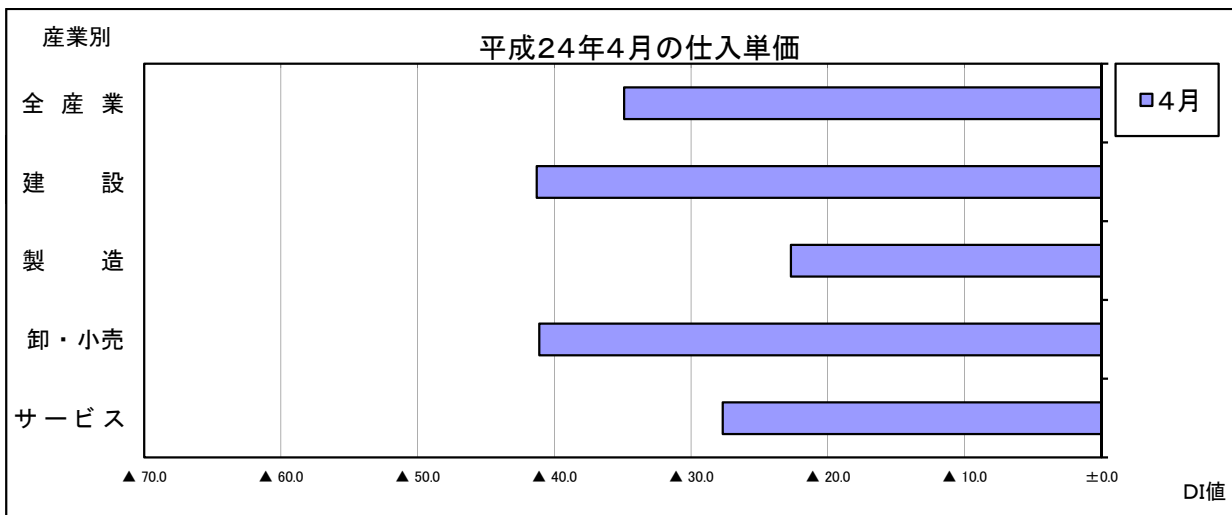
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲41.1(同▲52.9)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲41.3(同▲29.0)、サービス業▲27.7(同▲20.0)、製造業▲22.7(同▲17.3)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.2(前月水準▲27.7)となり、マイナス幅が2.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29.4(同▲38.2)、製造業▲18.1(同▲21.7)、サービス業▲16.6(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲31.0(同▲25.8)である。

平成24年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲28.8	▲31.3	▲32.4	▲33.9	▲32.4	▲34.9	▲25.2(▲27.7)
建設	▲23.0	▲40.0	▲13.7	▲33.3	▲29.0	▲41.3	▲31.0(▲25.8)
製造	▲21.7	▲36.0	▲25.0	▲21.7	▲17.3	▲22.7	▲18.1(▲21.7)
卸・小売	▲47.2	▲34.3	▲55.5	▲50.0	▲52.9	▲41.1	▲29.4(▲38.2)
サービス	▲10.5	▲10.0	▲28.0	▲17.6	▲20.0	▲27.7	▲16.6(▲20.0)



【平成24年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、0.9(前月水準1.8)となり、プラス幅が▲0.9ポイント縮小した。

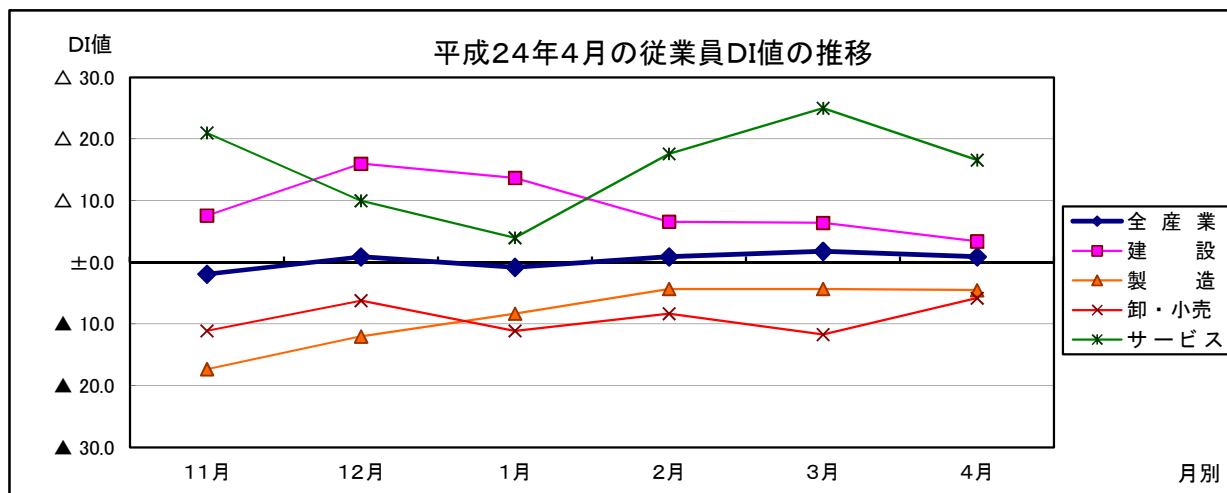
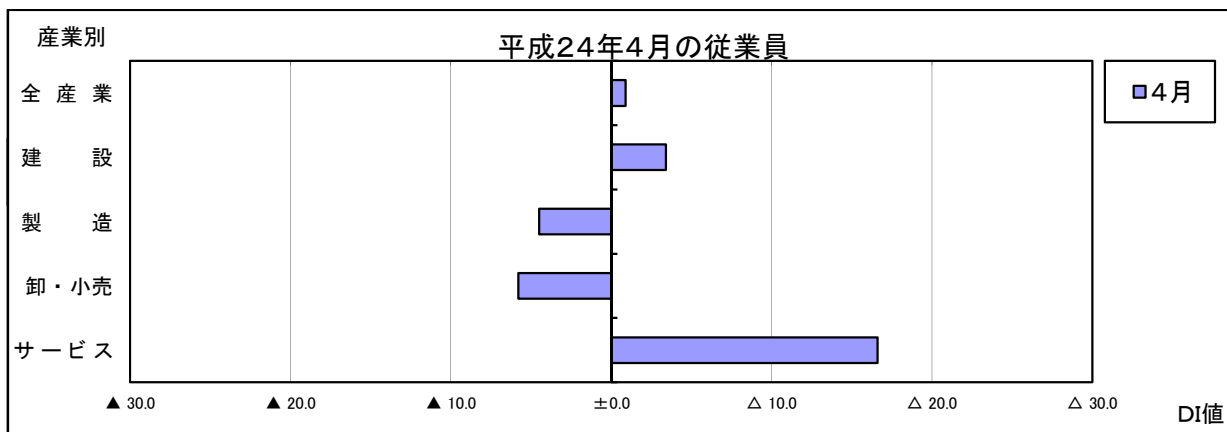
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲5.8(同▲11.7)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業16.6(同25.0)、建設業3.4(同6.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲4.5(同▲4.3)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.8(前月水準▲5.5)となり、マイナス幅が0.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業22.2(同20.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲9.0(同▲13.0)、建設業▲6.8(同▲9.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲14.7(同▲11.7)である。

平成24年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月 (4月~6月)
全産業	▲1.9	△0.9	▲0.8	△0.9	△1.8	△0.9	▲4.8 (▲5.5)
建設	△7.6	△16.0	△13.7	△6.6	△6.4	△3.4	▲6.8 (▲9.6)
製造	▲17.3	▲12.0	▲8.3	▲4.3	▲4.3	▲4.5	▲9.0 (▲13.0)
卸・小売	▲11.1	▲6.2	▲11.1	▲8.3	▲11.7	▲5.8	▲14.7 (▲11.7)
サービス	△21.0	△10.0	△4.0	△17.6	△25.0	△16.6	△22.2 (△20.0)



【平成24年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.6(前月水準▲12.0)となり、マイナス幅が1.4ポイント縮小した。

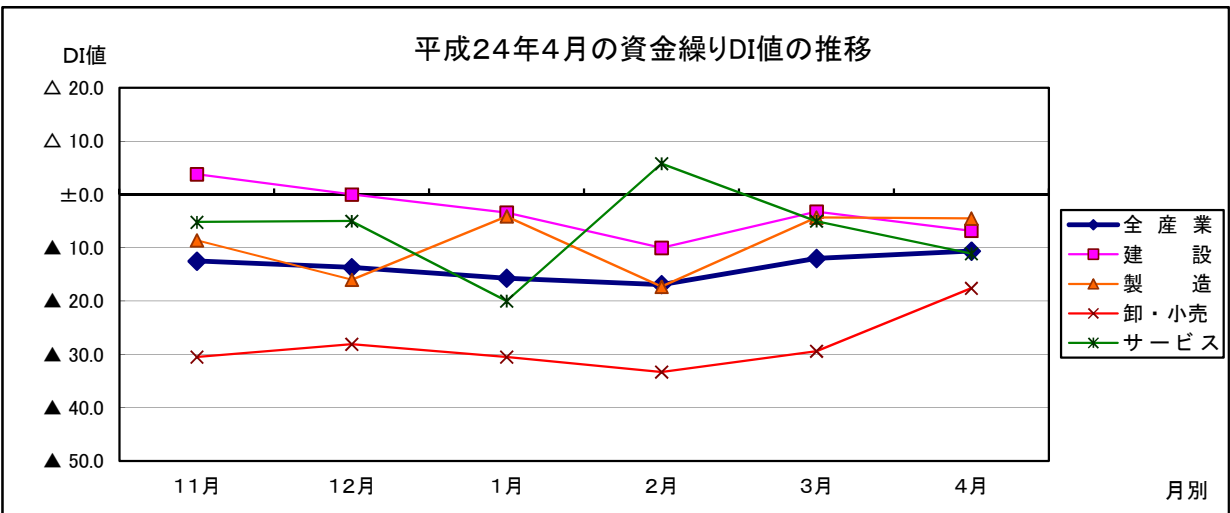
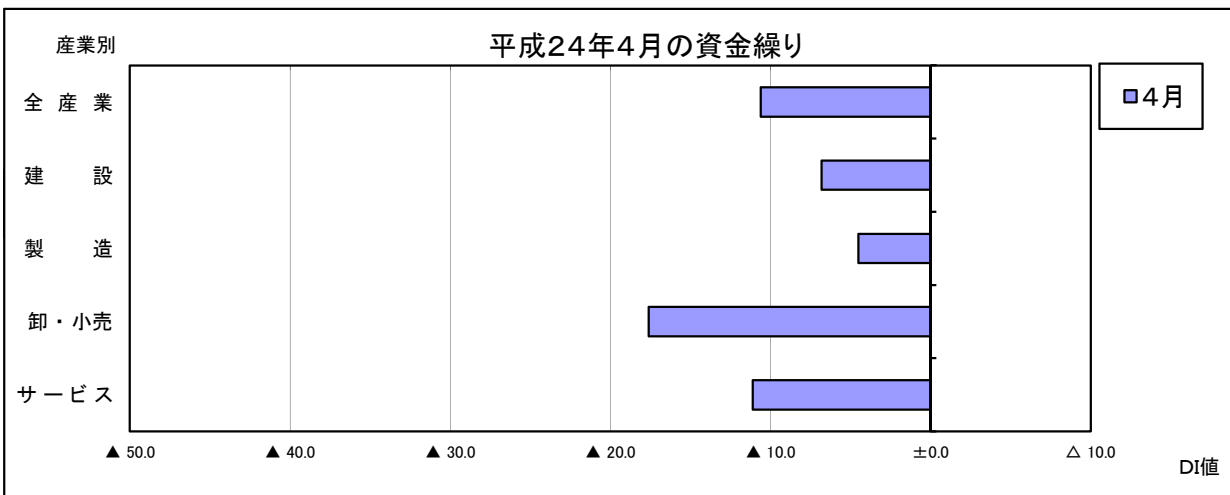
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲17.6(同▲29.4)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲11.1(同▲5.0)、建設業▲6.8(同▲3.2)、製造業▲4.5(同▲4.3)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.5(前月水準▲19.4)となり、マイナス幅が5.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲20.5(同▲32.3)、サービス業▲5.5(同▲15.0)、建設業▲10.3(同▲12.9)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲13.6(同▲13.0)である。

平成24年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 11月	12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月~7月(4月~6月)
全産業	▲12.5	▲13.7	▲15.7	▲16.9	▲12.0	▲10.6	▲13.5(▲19.4)
建設	△3.8	±0.0	▲3.4	▲10.0	▲3.2	▲6.8	▲10.3(▲12.9)
製造	▲8.6	▲16.0	▲4.1	▲17.3	▲4.3	▲4.5	▲13.6(▲13.0)
卸・小売	▲30.5	▲28.1	▲30.5	▲33.3	▲29.4	▲17.6	▲20.5(▲32.3)
サービス	▲5.2	▲5.0	▲20.0	△5.8	▲5.0	▲11.1	▲5.5(▲15.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 14.5	▲ 10.6	▲ 23.3	▲ 22.3	▲ 34.9	▲ 25.2	△ 0.9	▲ 4.8
建設	▲ 3.4	▲ 13.7	▲ 27.5	▲ 34.4	▲ 41.3	▲ 31.0	△ 3.4	▲ 6.8
製造	▲ 27.2	▲ 9.0	▲ 13.6	▲ 22.7	▲ 22.7	▲ 18.1	▲ 4.5	▲ 9.0
卸・小売	▲ 17.6	▲ 14.7	▲ 32.3	▲ 20.5	▲ 41.1	▲ 29.4	▲ 5.8	▲ 14.7
サービス	▲ 11.1	±0.0	▲ 11.1	▲ 5.5	▲ 27.7	▲ 16.6	△ 16.6	△ 22.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 26.2	▲ 26.2	▲ 10.6	▲ 13.5
建設	▲ 20.6	▲ 20.6	▲ 6.8	▲ 10.3
製造	▲ 22.7	▲ 22.7	▲ 4.5	▲ 13.6
卸・小売	▲ 41.1	▲ 35.2	▲ 17.6	▲ 20.5
サービス	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 5.5

【平成24年4月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設	まだまだ景気は低迷状態。機材で一部値上げあり。ガソリン代の値上がりにより収益が下がっている	景気低迷 燃料費高騰 利益減少	電気工事業
	節電対策の工事の問い合わせや見積もり依頼が多くなっています。ただ契約に至った物件はまだありません	節電対策工事	塗装工事業
	今年度の公共事業は除染(土木工事)がメインになり、建築工事は減少	除染工事 建築工事減少	塗装工事業
	前年度は震災後材料入手が困難となり高い材料購入となった。今期は材料高騰により採算ベース減少となっている。昨年末より材料が高騰しているが受注単価は減額している。以前の見積もりではとても受注できないようになっていく。材料が石油製品なので高騰は仕方ないが工事受注の為に競争が激しく件数は降りたり断つたりの状況が続いている。その結果前年度は震災の為に売上減少だったが、今年度は競争激化の為に売上減少となりそう	材料不足 材料高騰 受注単価減少 不採算 受注困難 競争激化 売上減少	その他の職別工事業
	いつも3月は引越シーズンで畳の需要が増える時期ですが、今年は思ったほど注文が入らず苦戦。だんだん暖かくなるので畳表を入れ替えてもらえればと思う	引越シーズン 受注減少	内装工事業
	新築住宅の着工が少ない。放射能の影響か？	新築住宅減少 放射能の影響	その他の職別工事業
製造	少ロット短サイクルに拍車がかかって残業休出を余儀なくされている状況である。電気使用量も節電どころかアップとなり支払い金額も予想をうわ回ると思われる	少ロット短サイクル 残業休出 電気料金値上げ コスト増加	電子部品・デバイス製造業
	大きな変化好転の兆しは聞こえてこない。原油価格上昇にともない仕入単価への影響が出始めている	原油価格上昇 仕入単価	その他の機械・同部品製造業
	昨年の価格改定の裏返しで前年比は悪いような数字になっていますが、業況としてはウイスキー類の販売は一時より好転していると思われる。	価格改定 業況好転	酒類製造業
	同業者の廃業がかなり増えてきている。印刷業界は本当に厳しく価格破壊も激化していくと思われる。	廃業増加 価格破壊	印刷業
	販売価格の引き下げ要求があり採算性に関しては厳しい状況である。なお、メーカーにおける生産計画は増加となっているため、生産量増加で対応していきたい	価格引き下げ要求 不採算 生産量対策	一般産業用機械・装置製造業
	新年度になり公共事業向けは少ないが携帯電話関係が動いている	公共事業減少	建築用・建設用金属製品製造業
	タイ洪水の特需も一段落し、震災直後の水準まで受注が落ち込む事が懸念される	タイ洪水特需 受注減少	電子応用装置製造業
原材料価格アップはストップした。仕事内容の変化に伴い、外注費の増加が有り利益に影響が出ている。	原材料高止まり 仕事内容変化 外注費増加 利益減少	紙製容器製造業	
	天候不順による春物商品の不調が目立つ。後半に入り春物コートの出が良いが全体では売れ筋商品が無いため、品ぞろえに苦慮している。低価格商品については価格競争がありますます下がってきている	天候不順 春物不調 品ぞろえ苦慮 価格競争	婦人・子供服小売業
	薬価切り下げの為に全体の売り上げが減少する	薬価切り下げ 売上減少	医薬品・化粧品小売業
	イトーヨーカドー内に古書店が入店。買い取りに問題がある為(万引き商品の換金、高額買取品リストの存在など)対応に苦慮	古書店入店 万引き対策	書籍・文房具小売業
	昨年が震災の為に今年は昨年対比で売上上昇したが、基本的に経済が良くなったわけではない今後も不透明で予測できず、不安材料の方が多いように思える。	対前年上昇 先行き不透明 不安材料	時計・眼鏡・光学機械小売業
	春の気温があまり上がらず春物の消化が悪かった。値下がりも大きく発生している。電気料金の値上げもせまり、今後は店内の温度などの空調も昨年よりもさらに細かく調整し節約につとめる	天候の影響 春物低迷 値下げ 電気料金値上げ 節電	その他の各種商品小売業

【平成24年4月の業種別業界内トピックス】

卸小売	4月度売上は、昨年比、一昨年比から微減。商品で見ると、衣料品が若干不振である。休日に雨の天候が重なったことも影響している。今後4月後半に昨年開催を見送った店外催事や、組織顧客向け対策を計画しているため、GWの巻き返しをはかりたいと考える。食料品は好調に推移し、前年から25%のプラスを維持している。	売上減少 衣料品不振 天候の影響 GW商戦 食料品好調	百貨店
	4月度、気温の上昇にともない、春物商材が活発化し順調な出足となった。しかし春休み明けから気温が安定せず、寒暖の差が激しかったことから売上は伸び悩んだ。中旬以降、昨年「ゴールデンウィークスペシャル」で特別プライスでの商品をご提供した反動が予想されるが、開業20周年記念キャンペーンなどで集客を高め売上に繋げていく。	天候の影響 春物伸び悩み GW商戦 キャンペーン	その他の各種商品小売業
	燃料費の高騰が未だ仕入れに響く。人口減少のニュースが悪循環を招いている	燃料費高騰	その他の各種商品小売業
	電気代の値上げは企業にとって大打撃である。そしてまた一方的な値上げは許されてはいけない。川口市のように柏市も市で何らかの対応をすべきだと思う。会議所は？	電気料金値上げ	各種食料品小売業
	昨年は震災の影響で厳しかったが今年は若干好転するかと思ったが昨年と変わりはない	震災の影響 業況不変	菓子・パン小売業
	消費税の増税問題や政治の不安定、加えて放射能の風評被害がポディーブローのように効いています	消費税増税 政治不安定 風評被害	農畜産物・水産物卸売業
	電気代の値上がりに対し、節電対策に苦悩	電気料金値上げ 節電対策	菓子・パン小売業
	今月の青果物は冬季春季の移り変わりが順調で無く低温続きで野菜の生育が遅いことから入荷が減少し、単価高となり売り上げ増になっても取引は厳しい状況です。また、4月から食品中の放射性物質の基準地が改まり、春物の出荷時期だが一部基準値を超えた産地からは取り扱いができなくなりました。その他の野菜は検査の上取扱いをしていますが、風評被害が広がらないよう情報を持って対応していきます	天候の影響 青果物生育不良 入荷減少 単価高 放射性物質基準 風評被害	食料・飲料卸売業
	3月決算で5月に納税がある為資金繰りは悪化するがそれ以外はおおむね現状通りと予想しています	現状維持	建築材料卸売業
	新年からの仕入価格はうなぎ昇りだが販売価格に転嫁できない分も数字に表れた。5月請求から価格改定の通知を回したので多少利益は多くなるだろう。大量消費先(主に飲食業)で価格の安定している天然ガスに切り替えが徐々に発生して生きていることが大問題である	仕入価格上昇 価格転嫁 利益増加 天然ガス	燃料小売業
原油高の影響でコスト高となっている割に原価に組み入れできず採算が合わない。販売価格の下落が特に多く持ってきている	原油高騰 不採算 販売価格下落	一般機械器具卸売業	
サービス	仕入単価上昇。メーカーの在庫量が多い商品もたくさんあるため、メニュー見直しも含め、仕入先と相談しながら今後の仕入れ量等を検討する。大量集中仕入れになるかもしれません。	仕入価格上昇 メニュー見直し 大量仕入れ	酒場・ビヤホール
	競合ホテルの開業(相鉄フレッサイン)により宿泊は厳しい予想宴席も企業宴席の減少により売り上げが読めない状況である。電気料金の値上げにより関連商品(備品)や食材の値上げも予想され利益が益々厳しい業界となる。	競合店開店 先行き不透明 電気料金値上げ 利益減少	ホテル
	放射能による風評被害の影響がじわじわと響いています。若いお客様が特に買い控えになっています。価格も低下傾向です	放射能の影響 買い控え 価格低下	不動産管理業
	銀行からの借り入れがしやすくなった		不動産賃貸業

◎電気料金値上げ

- 少ロット短サイクルに拍車がかかって残業休出を余儀なくされている状況である。電気使用量も節電どころかアップとなり支払い金額も予想をうわ回ると思われる 電子部品・デバイス製造業
- 春の気温があまり上がらず春物の消化が悪かった。値下がりも大きく発生している。電気料金の値上げもせまり、今後は店内の温度などの空調も昨年よりもさらに細かく調整し節約につとめる その他の各種商品小売業
- 電気代の値上げは企業にとって大打撃である。そしてまた一方的な値上げは許されてはいけない。 各種食料品小売業
- 電気代の値上がりに対し、節電対策に苦悩 菓子・パン小売業
- 競合店の開業により宿泊は厳しい予想宴席も企業宴席の減少により売り上げが読めない状況である。電気料金の値上げにより関連商品(備品)や食材の値上げも予想され利益が益々厳しい業界となる。 ホテル

◎天候の影響

- 天候不順による春物商品の不調が目立つ。後半に入り春物コートの出が良いが全体では売れ筋商品が無いため、品ぞろえに苦慮している。低価格商品については価格競争がありますます下がってきている 婦人・子供服小売業
- 4月度売上は、昨年比、一昨年比から微減。商品で見ると、衣料品が若干不振である。休日に雨の天候が重なったことも影響している。今後4月後半に昨年開催を見送った店外催事や、組織顧客向け対策を計画しているので、GWの巻き返しをはかりたいと考える。 百貨店
- 4月度、気温の上昇にともない、春物商材が活発化し順調な出足となった。しかし春休み明けから気温が安定せず、寒暖の差が激しかったことから売上は伸び悩んだ。 その他の各種商品小売業
- 今月の青果物は冬季春季の移り変わりが順調で無く低温続きで野菜の生育が遅いことから入荷が減少し、単価高となり売り上げ増になっても取引は厳しい状況です。また、4月から食品中の放射性物質の基準地が改まり、春物の出荷時期だが一部基準値を超えた産地からは取り扱いができなくなりました。その他の野菜は検査の上取扱いをしています。風評被害が広がらないよう情報を持って対応していきます 食料・飲料卸売業

◎燃料・原油高騰






- まだまだ景気は低迷状態。機材で一部値上げあり。ガソリン代の値上がりにより収益が下がっている 電気工事業
- 大きな変化好転の兆しは聞こえてこない。原油価格上昇にともない仕入単価への影響が出始めている その他の機械・同部品製造業
- 燃料費の高騰が未だ仕入れに響く。人口減少のニュースが悪循環を招いている その他の各種商品小売業
- 原油高の影響でコスト高となっている割に原価に組み入れできず採算が合わない。販売価格の下落が特に多く持ってきている 一般機械器具卸売業











平成24年4月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.2に対し、「CCI-LOBO」が▲16.8で、柏の方がマイナス幅が9.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.5に対し、「CCI-LOBO」が▲7.5で、柏の方がマイナス幅が7.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業。製造業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.3に対し、「CCI-LOBO」が▲16.2で、柏のほうマイナス幅が7.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種はサービス。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・製造業卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.9に対し、「CCI-LOBO」が▲30.1で、柏の方がマイナス幅が4.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が0.9に対し、「CCI-LOBO」が0.1で、柏の方がプラス幅が0.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.6に対し、「CCI-LOBO」が▲9.7で、柏の方がマイナス幅が0.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業。











平成24年4月の柏の景気天気図


柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 26.2	 20.6	 22.7	 41.1	 11.1
CCI LOBO	 16.8	 24.0	 9.5	 27.5	 9.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 14.5	 3.4	 27.2	 17.6	 11.1
CCI LOBO	 7.5	 14.7	 0.8	 15.5	 3.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.3	 27.5	 13.6	 32.3	 11.1
CCI LOBO	 16.2	 22.7	 13.1	 20.1	 12.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 34.9	 41.3	 22.7	 41.1	 27.7
CCI LOBO	 30.1	 38.1	 34.3	 21.5	 31.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 0.9	 3.4	 4.5	 5.8	 16.6
CCI LOBO	 0.1	 3.5	 2.6	 3.4	 3.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.6	 6.8	 4.5	 17.6	 11.1
CCI LOBO	 9.7	 14.9	 5.2	 13.9	 9.6

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (4月速報)

調査期間：平成24年4月13日～19日

調査対象：全国の415商工会議所が2887業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、改善続くも、先行きは慎重な見方変わらず

4月の全産業合計の業況DIは、16.8と、前月から+7.1ポイントと2カ月連続で大幅に改善。復讐需要の波及効果が及び始めたことに加え、自動車輸出増加に伴う製造業の改善などが要因。しかし、比較対象の前年同月(2011年4月)は東日本大震災後で業況DIが過去最大の悪化幅(前月比-11.8)を記録。サブ

ライチエーンの寸断による生産の停止・縮小や、自粛ムードによる消費の落ち込みなど、各地で景況感が大きく低迷した時期。実態は超円高の長期化、取引先の海外移転等に伴う受注の減少、原油価格の高止まりや電力料金の上昇によるコスト増などを背景に厳しい状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが20.2(今月比-3.4ポイント)と、悪化する見込み。超円高や原油価格の高止まりの長期化に加え、今夏の電力供給不足による事業活動への影響懸念から、先行きは依然として

慎重な判断となっている。

産業別にみると、業況DIは、全ての業種でマイナス幅が縮小。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「住宅エコポイント制度の再開に伴い小規模なりフォーム工事が増えているが、新築に関しては低迷している」(建築工事業)、「震災以降、人件費の高騰が続いており、利幅が縮小」(一般工事業)、「ハローワーク等を利用して電気技能工の募集をしているが応募がない」(電気工事業)

【製造業】「エコカー補助金の再開に伴い4～6月にかけて国内向けの大きな受注が入ったが、それ以降の反動減を懸念」(自動車部品製造業)、「円高により輸出は不振であるが、国内は復興需要により建設機械の受注が増加」(建設機械製造業)、「電力料金の値上がりに伴うコスト増に加え、今夏の電力の供給不足による生産活動へ

の影響を懸念」(輸送用機器製造業)

【卸売業】「中国での人件費の高騰により仕入価格が上昇している」(衣料・日用品卸売業)、「工場の海外移転が加速しているため、国内での鉄スクラップの発生が減少」(再生资源卸売業)、「円高の影響で製パン・製菓の原料である粉類の輸入価格が下落」(食料品卸売業)

【小売業】「気温の上昇に伴い、春物が好調。特にカジユアル衣料の動きが活発」(百貨店)、「高級ブランド品等の高額商品は総じて好調」(百貨店)、「売上の対前年比はプラスであるが、一昨年はマイナスのまま。商品単価の下落、採算の悪化など、厳しい状況が続いている」(酒類販売業)

【サービス業】「原油高騰の影響で軽油も上昇しているが、輸送価格への転嫁は困難」(運送業)、「震災の影響で昨年度は自粛や延期になった学会・イベント等が開催され宿泊・宴会が好調」(旅館)、「BCP(事業継続計

画)の構築を目的としたIT投資は増加傾向にある。それに伴い技術者が不足しており、人件費が高騰している」(ソフトウェア業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲35.5	▲30.1	▲29.2	▲32.9	▲44.1	▲38.0
12月	▲34.9	▲34.0	▲24.8	▲35.9	▲42.5	▲37.7
1月	▲31.9	▲29.0	▲25.6	▲22.3	▲40.3	▲36.2
2月	▲33.4	▲29.0	▲33.1	▲21.6	▲2.8	▲19.5
3月	▲23.9	▲33.6	▲15.3	▲27.4	▲30.0	▲18.1
4月	▲16.8	▲24.0	▲9.5	▲17.3	▲27.5	▲9.6
見通し	▲20.2	▲29.7	▲20.1	▲8.6	▲21.8	▲18.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI